

アスパラガス出荷始まる



JA筑紫アスパラガス部会は、令和2年産春芽アスパラガスの出荷を始めました。2月5日から共同選果をはじめ、3月にピークを迎える見込みです。

全体的に生育は順調。初日の出荷はLサイズを中心に、太めのものが出荷されました。

部会は、今年度から新たに1名と1法人が加入し、部会員1名が作付面積を約10a拡大しました。

部会員数15名2法人が面積約2.7haを栽培し、目合わせや圃場巡回を定期的に行うなど、部員一丸となり品質向上に努めています。また、農産物直売所ゆめ畑の店頭で部会員が試食販売を行うなど、販売促進にも力を入れています。

JAの担当者は「春芽のアスパラガスはみずみずしく食味も特に良いので、多くの消費者にぜひ味わってほしいです」と話しました。

営農経営座談会



JA筑紫は、2月6日から26日まで、管内5市69カ所で令和2年営農経営座談会を開きました。太宰府市北谷区の座談会には、組合員、行政担当者、JA職員など23名が参加。

座談会では、組合員に対し、次年度の農政や普通作、園芸振興などについて、各行政担当者と共に説明しました。組合員とJAの意見交換の場として、相互の報告から今後の検討課題を考えます。

JAは、自己改革として行った農業者の所得増大や農業生産の拡大などに関する取り組みを報告。組合員から意見を聞き、今後の取り組みに反映させます。

JA筑紫と筑前あさくら合同枝肉勉強会



JA筑紫肥育牛部会とJA筑前あさくら肥育牛部会は、JA全農ミートフーズ㈱で2月6日に、第10回JA筑紫・JA筑前あさくら肥育牛部会合同枝肉勉強会を開きました。

2JA間の生産者の交流を図るとともに、互いの肥育技術の向上を目的に、毎年開いています。

今回は黒毛和種12頭の出品があり、関係者などは専用冷蔵庫内で各枝肉の色つや、さしの具合などを確認。出品牛の脂肪交雑（BMS）の平均値が9.0と、レベルの高い勉強会となりました。生産者は関係者を交え、勉強会の結果や飼養管理について熱心に意見交換しました。

表彰式では、JA筑紫の(有)三宅牧場が最優秀賞を受賞。出品した枝肉の血統は、父「喜亀忠」、母の父「華春福」、母の母の父「安福久」。枝肉重量619.8kgで、肉質等級はA5、脂肪交雑は最高ランクのNo.12、ロース面積96平方センチメートルの厚さ10.0cm。審査講評では「枝肉に厚みがあり、肉色や光沢も鮮やか。全体的にボリュームがある素晴らしい枝肉です」と高評価を得ました。

受賞した三宅さんは、「すくすくと立派に成長してくれた牛に感謝しています。これからも良い牛を育てていきたいです」と笑顔で話していました。

JA筑紫窓口対応セールスロールプレイング大会



JA筑紫は2月10日、本店で令和元年度窓口対応セールスロールプレイング大会を開きました。

金融店舗窓口職員の接客対応の技術向上を目的に毎年開き、入組1年目の職員10名が出場しました。審査員には、JA福岡信連、JA筑紫職員が参加。身だしなみ等の確認や、商品の内容をお客様に分かりやすく伝えているか等を基準に審査を行いました。

職員は手作りのデモブックやチラシを用いて、緊張しながらも日頃の接客対応の成果を存分に発揮しました。

JAの担当職員は「全体的に好印象な対応でした。今後も親しみやすい窓口を目指して、日頃の業務に活かしてほしいです」と話しました。

結果は以下の通り。

▽1位＝石村彩乃（筑紫駅前支店）▽2位＝鎗水音夢（春日支店）▽3位＝川添優梨（御笠支店）

ゆめ畑春夏野菜栽培講習会



J A 筑紫は、ゆめ畑春夏野菜栽培講習会を開き、J A 農産物直売所ゆめ畑の出荷者やJ A 職員などが参加しました。

講習会は、元J A 職員の神崎光成さんが講師を務め、気象状況や農作物の現状の他、今後の管理について説明。

講習会は組合員の農業所得の向上を目的に年2回開いています。消費者へ安定的に野菜を供給するため、組合員へ適時に栽培方法について伝えています。

圃場で生育を確認



J A 筑紫麦出荷者部会は2月19日から5日間、麦の追肥状況と圃場（ほじょう）管理状況を確認するため巡回しました。管理徹底による高品質な麦の生産を目指し、全ての圃場を対象に行いました。

19日は、部会役員や関係機関、J A 職員など6名が筑紫野市内を巡回しました。

部会員は、作付けする各品種の圃場に生産工程計画を記した看板を設けています。参加者は看板を見ながら、追肥や麦の生育状況など、圃場の管理状況を入念に確認しました。初期の生育は天候に恵まれ適期に播種を行ったことや、平年より高温が続いたことで順調。しかし2月以降は雨が続き湿害が発生し始めたため、より一層徹底した管理を行っていく予定です。

部会役員は「これからも部会員の生産意識向上を図り、誇りを持って出荷できる麦づくりに励んでいきたいです」と話しました。

生産者から剪定技術を学ぶ



JA筑紫女性部農業関係グループは2月20日、JA山口支店で委員会を開きました。みかんの木の剪定講習や、自慢の手作り料理を持ち寄り、懇親会を実施。グループの部員23名が参加しました。

部員は、筑紫野市萩原でみかんを栽培する牧尾司郎さんのみかん畑を訪問。牧尾さんは「木と会話しながら剪定することがポイントです」と話し、この時期に行うみかんの木の剪定方法を説明しました。部員は、実際に剪定しながら、品種による剪定方法の違いや防除の仕方などを質問しました。また、JA山口支店でそれぞれが持ち寄った自慢の料理を味わいながら、レシピや味付けのコツなどを情報交換しました。部員は「とても勉強になりました。学んだことを日ごろの農作業や料理に生かしていきたいです」と笑顔で話しました。

グループは、野菜や加工品作り等の技術向上を目指すことを目的に、農家の女性を中心に活動しています。